

ふわふわ

リハビリスタッフよりごあいさつ
 深川病院のリハビリスタッフは、サービス担当者様と上手く連携し、少しでも良いリハビリを提供したいと思っています。その為にはまず、スタッフやリハビリの仕事内容を紹介したいと思い、このような読み物をつくりました。お時間のある時に、気楽に目を通して頂けると嬉しいです。

摂食・嚥下コーナー

- どのような状態の時に摂食・嚥下障害がうたがわれるのか。
- 訪問リハビリではどのような関わりが可能なのか。

●摂食・嚥下障害の有無を判断するポイント

- ①食べ物が飲み込みにくくなる。
- ②食事時間が長くなる。
- ③むせやすい物や硬い物を避け、食事に偏りがみられる。
- ④口から食べ物がこぼれる。
- ⑤長時間口に食べ物をため込んでなかなか飲み込めない。食後、食べ物が口の中に残っている。
- ⑥上を向いて飲み込む。
- ⑦特定の物(水分など)でむせる。
- ⑧食事中にむせが多くみられる。
- ⑨食事中や食後に咳き込む。
- ⑩食事中や食後に声がかすれる。



スタッフ紹介

名前 佐々木 友和(35歳)
 職種 理学療法士(6年目)
 家族構成 妻と娘(4ヶ月)



食事中に時折見せる表情

近況 7月より初めての子育てを頑張っています。お風呂入れと、夜の寝かし付けが主な仕事です。泣き止まずのに、ドライヤーやシャワーの音を使っています。光熱費の掛かる、エコからは遠く離れた娘です。

●訪問リハビリではどのような関わりができるのか。

- ①摂食・嚥下機能評価
- ②摂食・嚥下に必要な機能の運動や練習
- ③摂食時の適切な姿勢の指導
- ④食物形態の提案
- ⑤食事の介助方法の指導

摂食・嚥下評価表

氏名: _____
 検査者: _____

検査日: _____年 _____月 _____日 時~

評価項目	結果			
姿勢・頭部の状態	可	不十分	不可	
口唇閉鎖	可	不十分	不可	
開口	可	不十分	不可	
突出	可	不十分	不可	
口角を引く	可	不十分	不可	()
頬膨らます	可	不十分	不可	
口腔内の状態				
唾液	有	不十分	無	
食物残渣	有	無		
義歯の有無	有	無		
適合	適合	不適合		
舌形状	扁平	塊状	萎縮(部位:)	
偏位	有	無		
舌音	有(色:)	量:)	無	
突出	可	不十分	不可	
上下運動	()	()	()	不可
左右運動	()	()	()	不可
固縮	可	不十分	不可	
「pa」の発声	可	不十分	不可	
「ta」の発声	可	不十分	不可	
「ka」の発声	可	不十分	不可	
軟口蓋 対称性(静止時)	対称	非対称()		
カーテン現象	有	無		
咀嚼	可	不可		
発声 大きさ	良好	不十分	不可	
嚙声	有	無		
「ア」の持続時間	可()	秒	不可	
呼吸のコントロール				
息止め	可	不十分	不可	
呼気の最大持続時間	秒			
随意的な咳	可	不十分	不可	
咽頭反射	有	無	不十分	
嚥下反射	有	無	不十分	
喉頭挙上	有	無	不十分	
その他の反射の有無	有()	反射	無	
反復唾液飲みテスト	回	30秒		

備考: _____

当院で使用している評価用紙の一部



研修後の伝達講習の様子

スタッフ間での情報共有には真剣に取り組んでいます。

身も心もほぐしちゃおう

お久しぶりです、理学療法士の中谷です。

今回は「コンフォートタッチ」というマッサージ法の紹介です。このマッサージ法は米国コロラド州のMaryKathleen Rose という方が開発したものです。高齢者や病を持つ方の身体的側面や感情的側面のニーズを考慮したアプローチ法であり、深いリラクゼーションと痛みを和らげる技術を通して患者様に心地よさをもたらすことが主な狙いです。通常のマッサージでは不快に感じたり組織が傷ついたりする恐れのある方々に対してこの方法であれば安全に行うことができるということで、私も半年ほど前から痛み刺激に敏感な方や触れることで筋緊張が上がりやすい方を対象に試んでいます。この方法を治療に取り入れてみたところ、認知症の方で痛みに敏感な方にもとても効果的でした。詳しい方法を知りたい方は「高齢者と患者へのケア&マッサージ コンフォート・タッチ」をご参照ください。インターネットでも紹介されているかもしれません。

技術的なテクニックがたくさん載っていますが原則としては、触れている部位の中心に向けて押圧すること、広範囲を均等に加圧すること、包み込むように触れることなどが挙げられています。

精神的な効果も含めて、わかりやすく書いてあります。自宅で介護をなさっているご家族や、医療職の方々、介護職の方々にもお勧めの本です。1つだけ、簡単な手技を右にのせておきますので、ぜひお試しを・・・。

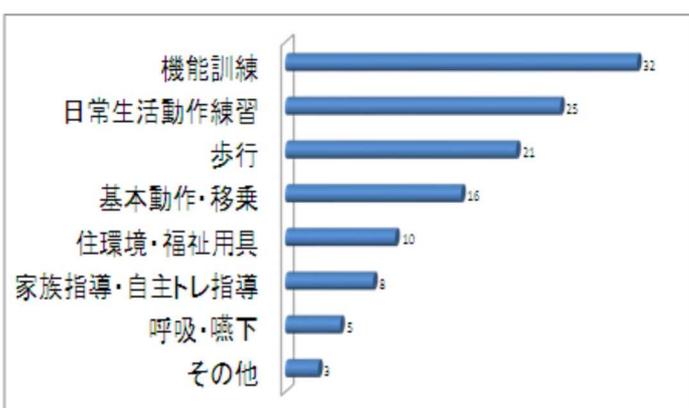


包み込むタッチ

腕や足を包み込むにはまず、両母指を平行に並べ、両手の四指を広げて蝶の羽のような形をつくります。そして羽の部分で触れている身体部位の周辺をしっかりとした一定の力で包み込みます。

どのような時に訪問リハを利用すれば良いの？にお答えします

当事業所(訪問リハビリ)への要望



訪問リハビリへの依頼(具体例)

- 60歳代男性、デイケアに通うことに抵抗があるが、運動を行いたい。ゆくゆくは活動範囲の拡大も含めデイケアにつなげたい。
- 痰が自分で出しづらく息苦しさが強くなっている。安楽に呼吸が行えるように訓練を行って欲しい。
- 食事時にムセが強く食べづらいことがある。誤嚥性肺炎を予防したい。
- 廃用によるベッド上臥床状態。排泄もオムツ内のため妻の介助負担が大きい。起居・つかまり歩行ができるようになりトイレで排泄が行えるようになって欲しい。
- 末期癌で段々と体力が低下してきているが、最後まで住み慣れた自宅で生活したい。住みやすい環境を整え、体力を維持したい。

機能訓練の割合が多い印象をもたれると思いますが、単独の依頼ではなく日常生活動作練習、歩行練習、基本動作練習、移乗動作練習といった動作練習と合わせてご依頼を頂いております。機能訓練には、寝たきりの様な方への廃用予防に関節可動域運動の実施も含まれています。その他には、高次脳機能訓練や家事動作練習、ポジショニングなどが含まれます。申し込み時の依頼はこのようなものですが、実際にサービスが開始されてから能力に応じて訓練内容の変更、福祉用具の選定、自主トレーニングの指導、環境調整などを随時行っています。